

文 献

- 安達正嗣 (1999) : 高齢期家族の社会学,世界思想社.
- 赤塚永貴, 有本梓, 田高悦子、臺 有桂, 伊藤絵梨子, 白谷佳恵, 大河内彩子 (2016) : 都市部地域在住高齢者の主観的健康観に関連する要因の性差に関する比較, 日本地域看護学会誌, 19(2), 12-21.
- 天田城介 (1999) : 在宅痴呆性老人家族介護者の価値変容過程, 老年社会科学, 21(1), 48-61.
- Anselm,Srrauss.Juliet Corbin(1988).操華子, 森岡崇 (2004) : 質的研究の基礎第2版, 医学書院, 205-213.
- アーロン・アントノフスキー (1987), 山崎喜比古、吉井清子監訳 (2001) : 健康のなぞを解く ストレス対処と健康保持のメカニズム, 有信堂.
- 荒井由美子(2004) : 家族介護者の介護負担ーその評価および今後の課題ー, 老年精神医学雑誌, 15 増刊号, 111-116.
- パトシリア ベナー, ジュディス ルーベル (1989) : 現象学的人間論と看護. 難波卓志 (1999), 医学書院, 159-182
- Buckwalter, KC.Gerdner,L. Kohout,F .et al(1999) : A nursing intervention to decrease depression in family caregivers of persons with dementia : *Arch Psychiatric Nursing*, 8(2),80-88.
- ハーバート・ブルーマー (1969). シンボリック相互作用論,後藤将之 (2005), 勁草書房.
- Camelia Rohani, Heidar-Ali Abedi, Kay Sundberg and Ann Langius-Eklöf. (2015) : Sense of coherence as a mediator of health-related quality of life dimensions in patients with breast cancer : a longitudinal study with prospective design, Rohani *et al. Health and Quality of Life Outcomes*, DOI 10.1186/s12955-015-0392-4.
- Chang,BL. Brecht,ML. Carter,PA(2001) : Predictors of social support and caregiver outcome, *Womens and Health*,33,39-61.
- W,C チェニッツ. J,W スワンソン (1986). 樋口康子, 稲岡文昭 (1992) : グラウンデッド・セオリー, 医学書院.
- Dellasega,C.Zerbe,TM(2002) : caregivers of frail rural order adults:effect of an advanced practice nursing intervention.*Journal of gerontology nursing*,28(10),40-49.
- Edward,NE. Scheetz,P.S(2002) : Predictors of burden for caregivers of patients with parkinson's deisease, *Journal of Neuroscience Nursing*,34,184-190.
- 衛藤 隆 (2010) : セーフティプロモーション : ヘルスプロモーションとの共通点, 相違点, 日健教誌, 18(1), 26-31.

- Farran,C.J, K.Hagerty, Salloway,S. et al(1991) : Finding meaning: An alternative paradigm for Alzheimer's disease family caregivers, *The Gerontologist*,31,483-489.
- ウヴ・フェリック (2007). 小田博志 (2011) : 質的研究入門, 春秋社, 12 章
- 藤原和彦, 上城憲司, 小池伸一, 山口隆司, 原口健三 (2014) : 在宅認知症高齢者の家族介護者における介護負担感とコーピングの性差の検討ー男性介護者・女性介護者の特徴ー, *日本作業療法研究学会雑誌*, 17(1), 31-40.
- 船津衛, 宝月誠 (2006) : シンボリック相互作用論の世界, 恒星社厚生閣, 第 1-3 章.
- Gayle,l A. (2002) : Health-promoting self-care in family caregivers., 24(1),73-86.
- Gerdner,LA. Buckwalter,KC. Reed,D (2002) : Impact of a psycho-educational intervention on caregiver response to behavioral problems, *Nursing research*,51869,363-374.
- グレッグ美鈴, 麻原きよみ, 横山江 (2007) : よくわかる質的研究の進め方・まとめ方. 医歯薬出版.
- 平成 28 年度版高齢社会白書 (2016)
- 樋口キエ子, 田城孝雄 (2004) : 医療的ケアを担う家族介護者支援に関する研究ー医療的ケアに慣れる過程で体験するたいへんなことからー, *日本在宅ケア学会誌*, 8(1/2), 50-57.
- 平泉 拓 (2011) : 認知症家族介護者におけるストレス反応と家族構造の問題, *日本認知症ケア学会誌*, 10(1), 97-105.
- 平松誠, 近藤克則, 梅原健一他 (2006) : 家族介護者の介護負担感と関連する因子の研究 (第 1 報) 基本属性と介入困難な因子の検討, *厚生指標*, 53 (11), 19-24.
- 平松誠, 近藤克則, 梅原健一他 (2006) : 家族介護者の介護負担感と関連する因子の研究 (第 2 報) マッチドペア法による介入可能な因子の探索, *厚生指標*, 53 (13), 8-13.
- 平山 亮 (2014) : 家族介護者のサポート源とその経時的変化ー家族から協力と介護保険サービスに焦点を当ててー, *老年社会科学*, 36(1), 43-47.
- 広瀬美千代, 岡田進一, 白澤政和 (2005) : 家族介護者の介護に対する認知的評価を測定する尺度の構造, *日本在宅ケア学会誌*, 9(1), 52-60.
- 広瀬美千代 (2010) : 家族介護者の「アンビバレントな世界」における語りの記述ーもう一つのストーリー構築に向けてー, *老年社会科学*, 31(4), 481-491.
- 堀 容子, 星野純子 (2010) : 家族介護者の健康問題, *現代医学*, 58(2), 349-354
- I, ホロウェイ. S,ウィナー (1996). 野口美和子監訳 (2000) : ナースのための質的研究入門, 7 章
- 井上郁 (1996) : 認知障害のある高齢者とその家族介護者の現状, *看護研究*, 29 (3), 189-202.

- 伊藤ちぢ代 (2008) : 現代の健康観とその諸問題－健康観の諸要素をめぐる分析－, 日本大学大学院総合社会情報研究科紀要, 9, 209-220.
- 岩室紳也 : 地域医療が担うこれからの地域保健(最終回) 変わり続ける地域保健－ヘルスプロモーションを推進させる専門家に－, 月刊地域医学, 28(2), 144-149.
- 岩田 昇, 堀口和子 : 要介護者の性別および家族介護者の続柄別にみる在宅介護の認知評価, 対処方略及び生活への影響の相違, 日本公衛誌, 63(4), 179-185.
- JoAnn Perry (2002) : Wives Giving Care to Husbands with Alzheimer's Disease : A Process of Interpretive Caring, *Research in Nursing & Health*, 25, 307-316.
- 梶原弘平, 中谷久恵, 小野ミツ, 宮脇由紀子 (2015) : 認知症介護の肯定的認識に着目した家族への情報提供による介入と効果, 日本認知症ケア学会誌, 14(2), 485-493.
- Kalra,L. Evans,A. Perez,I et al(2004) : training cares of stroke patients Randomized controlled trial.*BMJ*,328(7448):1099.
- 鹿子供宏, 上野伸哉, 安田 肇 (2008) : アルツハイマー型老年認知症患者を介護する家族の介護負担に関する研究－介護者の介護負担感、バーンアウトスケールとコーピングの関連を中心に－, 老年精神医学雑誌, 19(3), 333-341.
- Karen, Glanz. Barbara, K Rimer.Frances, ML (2002) .曾根智史, 湯浅資之, 鳩野洋子訳 (2006) : 健康行動と活動と健康教育,医学書院, 77-149.
- 鹿瀬島岳彦, 田高悦子, 田口理恵, 有本 梓, 臺 有桂, 今松友紀 (2015) : 健康長寿に向けた大都市在住自立高齢者における主観的健康感と関連要因の検討, 日本地域看護学会誌, 17(3), 23-29.
- 春日井典子 (2009) : 介護ライフスタイルの社会学. 世界思想社.
- 木村登紀子 (2009 : つながりあう「いのち」の心理臨床, 新曜社, 第5章.
- 桐明あゆみ, 森山美知子 (2016) : 認知症を有する人を介護する家族介護者のパートナーシップを築く力の向上を目指した教育プログラムの効果の検討, 日本看護科学会誌, 36, 1-8, DOI : 10.5630/jans.36.1.
- 小林奈美 (1999) : 要介護高齢者を看取り終えた介護者の感想とその満足に関連する要因の検討－都市における訪問看護指導対象者の調査から－, 日本地域看護学会誌, 1(1), 30-35.
- 児玉寛子 (2015) : 家族介護者における介護終了後の生活適応プロセスの検討－介護期間中から介護終了後までの期間に着目して－, 日本認知症ケア学会誌, 19(1), 35-42.
- Kramer,B (1997): Gain in the Caregiving Experience: Where are we? What next? *Gerontologist*, 37,218-232.
- Kuroda Akiko, Tanaka Katsutoshi, Kobayashi Ryuji , Ito Takeshi ,Ushiki Ayako and Nakamura

- Ken (2007), Effect of Care Manager Support on Health-Related Quality of Life of Caregivers of Impaired Elderly : One-Year Longitudinal Study, *Industrial Health* 2007.45.402-408 DOI : 10.1186/1477-7525-11-216.
- Lawton,MP. Kleban,MH. Moss, M. et al(1989) : Measuring caregiving Appraisal. *Journal of Gerontology, Psychological Science*,44(3),61-71.
- Lawton,MP. Moss,M. Kleban,MH. et al(1991) : A two-factor model od caregiving appraisal and psychological well being, *Journal of Gerontology Psychological science*, 46(4), 181-189.
- Lynne, E. Virginia, Hayes (2001) : ヘルスプロモーション実践の改革. 高野順子監訳 (2008), 日本看護協会出版, 第3章.
- Martin, Pinquart. Silvia, Sorensen(2007) : Correlates of Physical Health of Informal Caregivers, A Meta-Analysis. *Journal of Gerontology: Psychological Sciences*, 62(2),126-137.
- Mildred Blaxter,渡辺義嗣 (2011) : 健康とは何か - 新しい健康感を求めて -, 共立出版.
- マルティン・ブーバー (1989) : 我と汝・対話, みすず書房.
- 丸尾智実, 河野あゆみ (2014) : 家族介護者を対象とした認知症の症状に対応する自己効力感向上プログラムの効果, *日本プライマリ・ケア連合学会誌*, 37(2), 104-111.
- 松下年子 (2014) : 家族介護者の共依存, *日本認知症ケア学会誌*, 13 (3), 560-567.
- 榎本妙子(2000) : 「健康」概念に関する一考察.立命館産業社会論集, 36(1), 123-139.
- 松澤明美、田宮菜奈子 (2011) : ケアラーへの支援とヘルスサービスリサーチ, 58 (9), 805-809, *日本公衆衛生学雑誌*.
- Miller,E.Berrios,G.Politynska,BE(1996) : Careing for someone with Parkinson's disease: Factors that contribute to distress. *International Journal of Geriatric* 11,263-268. *Psychiatry*,
- 三徳和子, 高橋俊彦, 星 且二 (2006) : 主観的健康感と死亡率の関連に関するレビュー一, *川崎医療福祉学会誌*, 16(1), 1-10.
- 宮上多加子 (2004) : 痴呆性高齢者の家族における介護実践力に関する研究, *老年社会科学*, 25(4), 450-460.
- 宮上多加子 (2004) : 家族の痴呆介護実践力の構成要素と変化のプロセス—家族介護者 16 事例のインタビューを通して—, *老年社会科学*, 26(3), 330-339.
- 宮村季浩 (2016) : 認知症の人の生活上の困難さについての認知症の人と家族介護者の認識の違い, *日本公衛誌*, 63(4), 202-208.
- 宮永和夫 (2012) : 認知症の家族介護者の支援と介護者の QOL, *老年精神医学雑誌*, 23(12), 1443-1451.
- ニコラス・ルーマン,大庭健,正村俊之 (1997) : 信頼 社会的な複雑性の縮減メカニズム, 勁草書房.

- 森 千沙子(2007)：在宅介護における主介護者の生活習慣と精神的健康に関する研究，
10(2)，51- 57.
- 森 英里菜（2016），上杉裕子：在宅における家族介護者の現状と課題，日本保健医療行
動科学会雑誌，31(1)，57-63.
- 村田 伸，津田 彰（2008）：高齢者の主観的健康感の充実に関する研究，久留米大学心
理学研究，7，41-54.
- 長澤久美子，飯田澄美子（2008）：男性介護者の介護継続要因，家族看護学研究，14(1)，
58-67.
- 長戸和子，中野綾美，野嶋佐由美(2005)：家族を対象とする質的研究の方略—家族の合意
形成を支援する看護介入モデルの開発—，保健の科学，47(5)，341-347.
- 中越竜馬，武政誠一，中山加奈子，森岡寛文，雄山正崇（2014）：在宅高齢者のADLとそ
の家族介護者のQOL・介護負担感の縦断的な変化に影響を及ぼす要因について，理
学療法科学，29(1)，87-95.
- 中越竜馬，武政誠一，南場芳文，森岡寛文，雄山正崇，中山加奈子（2014）：介護保険制
度の利用における家族介護者の満足度と家族介護者の経済状況，理学療法科学，
29(6)，867-871.
- Neale R Chumbler, Kurt Kroenke, Samantha Outcalt, Matthew J Bair, Erin Krebs, Jingwei Wu
and Zhangsheng Yu(2013)：Association between sense of coherence and health-related
quality of life among primary care patients with chronic musculoskeletal pain, Chumbler *et*
al. Health and Quality of Life Outcomes 2013, 11:216.
- 信田さよ子（1999）：アディクションアプローチ，医学書院.
- 新鞍真理子，荒木晴美，炭谷靖子（2008）：家族介護者の続柄別に見た介護に対する意識
の特徴，老年社会科学，30(3)，415-425.
- 新名理恵，矢富直美，本間昭（1991）：痴呆老人の在宅介護者の負担感に関するソーシャ
ルサポートの緩衝効果，老年精神医学雑誌，2（5），655－663.
- 西村昌記（2014）：家族介護者ソーシャルサポート尺度の開発，老年社会科学，36(1)，3-
12.
- 布元義人，竹本与志人，長安つた子，香川幸次郎（2010）：認知高齢者における家族介護
者の介護認識の変容に関する研究の動向，日本認知症ケア学会誌，9(1)，103-111.
- 緒方泰子，橋本ミチ生，乙坂佳代（2000）：在宅要介護高齢者を介護する主観的介護感，日
本公衆衛生雑誌，47（4），307－319.
- 岡戸順一，星 且二，長谷川明弘，高林幸二，渡部月子，藤原佳典（2000）：主観的健康
感の医学的意義と健康支援活動，総合都市研究，73，125-133.

- 大西和子, 櫻井しのぶ (2007) : ヘルスプロモーション, ニューヴェルヒロカワ.
- Ostwald,SK. Hepburn, KW.BurnsT(2003) : Training family caregivers of patients with dementia : A structured workshop approach, *Journal of gerontology nursing*, 29(1), 37-44.
- N.J ペンダー (1987). 小西恵美子監訳 (1997) :ペンダーヘルスプロモーション看護論, 日本看護協会出版会, 第1章.
- Pinquart,M. Sorensen,S(2003) : Differences between caregivers and non-caregivers in psychological health and physical health: A meta-analysis. *Psychology and Aging*,18,250-267.
- レナート・ノルデンフェルト (1987) : 健康の本質. 石渡隆司, 森下直貴 (2003) , 時空出版.
- Richard, Schulz. Paul, Visintainer. Gail, M Williamson(1990) : Psychiatric and physical Morbidity Effects of Caregiving. *Journal of Gerontology, Psychological Sciences*,45(5),181-191.
- Richard,Schulz. Scott,R Beach(1999) : Caregiving as a Risk Factor for Mortality. *JAMA*,282(23),2215-2216.
- J, Robinson. R, Foryinsky. A, Kleppinger. et al(2009) : A Broader View of Family Caregiving and caregiver Conditions on Depressive Symptoms, Health, Work and Social Isolation. *Journal of Gerontology, Social Sciences*,64B(6),788-789.
- 斉藤恵美子, 國崎ちはる, 金川克子(2001) : 家族介護者の介護に対する肯定的側面と継続意向に関する検討, 日本公衆衛生雑誌,48(3),180-189.
- 佐藤悦子 (1995) : 家族内コミュニケーション, 勁草書房.
- 坂井郁恵, 水野恵理子 (2014) : 在宅精神障害者の家族介護者の生活体験から捉える Sense of coherence に関する記述的研究, 日本看護科学会誌, 34, 280-291.
- 佐甲 隆 (2008) : ターミナルヘルスプロモーションのすすめ, 保健師ジャーナル, 64(3), 246-251.
- 桜井志保美, 河野由美子, 平井真理 (2015) : 要介護者と同居する家族介護者のストレス解消方法の特徴, 日本在宅ケア学会誌, 19(1), 68-73.
- 佐藤美由紀, 齊藤恭平, 若山好美, 芳賀 博(2016) : アクションリサーチによる地域高齢者の社会参加促進型ヘルスプロモーション・プログラムのプロセス, 老年社会科学, 38(1), 3-20.
- キャシー・シャーマンズ (2006). 抱井尚子, 末田清子 (2008) : グランデッド・セオリーの構築, ナカニシヤ出版.
- Sharon A. Denham, DSN (2002) : Family Routines : A Structural Perspective for Viewing Family Health, *Advances in Nursing Science*, (7),60-75.
- 嶋田雅子, 保科ゆい子, 吉葉かおり, 野藤 悠, 増居志津子, 中村正和 : 医療現場におけるヘルスプロモーション-HPH の概要について-, 月刊地域医学, 30(5), 386-389.

- 島内憲夫 (2007) : 人々の主観的健康観の類型化に関する研究—ヘルスプロモーションの視点から—, 順天堂医学, 53(3), 410-420.
- 島井哲志 (2010) : ポジティブ心理学, ナカニシヤ出版.
- 島篠崎未生 (2004) : 家族介護研究の問題点と今後の方向性, 京都大学大学院教育学研究科 紀要 50, 200-211.
- Sorensen, S. Pinguart, M. Duberstein, P (2002) : How effective are interventions with caregivers? An updated meta-analysis, *gerontologist*, 42(3), 356-372.
- Stephens, MA. Franks, MM. Townsend, AL(1994) : Stress and reward in women's multiple roles; the case of woman in the middle. *Psychology and aging*, 9, 45-52.
- 須田木綿子, 児玉寛子 (2014) : 高齢者と家族介護者の精神的健康, 老年社会科学, 36(1), 34-38.
- 菅沼一平, 上城憲司, 白石 浩 (2014) : 認知症高齢者の家族介護者に対する心理教育介入—ソーシャル・スキルズ・トレーニングの効果について—, 日本認知症ケア学会誌, 13(3), 601-610.
- 杉原陽子, 杉澤秀博, 中谷陽明, 他 (1998) : 老人の主介護者のストレスに対する介護期間の影響, 日本公衆衛生雑誌, 45 (4), 320-325.
- 杉山賢明, 遠又靖丈, 武見ゆかり, 津下一代, 中村正和, 橋本修二, 宮地元彦, 山縣然太郎, 横山徹爾, 辻 一郎 (2016) : 健康日本 21 (第二次) に関する国民の健康意識・認知度とその推移に関する調査研究, 日本公衛誌, 63(8), 424-431.
- 杉原百合子, 山田裕子, 武地 一 (2012) : 認知症高齢者家族の意思形成過程の経時的変化に関する研究, 日本認知症ケア学会誌, 11(2), 516-528.
- 杉岡広子, 井村美紀 (2014) : 認知症高齢者の家族介護者の心情—文献研究が明らかにするその経時的様相—, 日本認知症ケア学会誌, 12(4), 796-803.
- 杉浦圭子, 伊藤美樹子, 久津見雅美, 三上 洋 (2010) : 在宅介護継続配偶者介護者における介護経験と精神的健康状態との因果関係の性差の検討, 日本公衛誌, 57(1), 3-16.
- 鈴木規子, 谷口幸一, 浅川達人 (2004) : 在宅高齢者の介護をになう女性介護者の「介護の意味づけ」の構成概念と規定要因の検討, 老年社会科学, 26(1), 68-77.
- 高橋龍太郎, 平山 亮 (2014) : 高齢者の認知機能変化と家族介護者の認識, および相互関係の影響について, 老年社会科学, 36(1), 39-42.
- 豊島泰子, 福田清香, 鷺尾晶一, 荒井由美子 (2015) : 在宅で要介護高齢者を介護する家族介護者の介護負担, 臨床と研究, 93(3), 87-91.
- 魚里明子 (2013) : 健康生成論に基づいた「健康に生き抜く力」の概念に関する研究—概念モデル抽出のための文献検討—, 関西看護医療大学紀要, 5(1), 10-27.

- 上野千鶴子 (2013) : ケアの社会学,太田出版. 1, 2, 5 章.
- 湯浅資之, 島内憲夫, 中原俊隆(2006) :ヘルスプロモーションの基礎的諸概念に関する考察. 日本公衆衛生, 53 (1), 3-7.
- 湯原悦子(2014) : 介護者セルフアセスメントシートの効果検証, 日本認知症ケア学会誌, 13(3), 627-644.
- 鷺尾晶一, 豊島泰子, 山崎律子, 宇佐いづみ, 荒井由美子 (2012) : 家族介護者の介護負担に関連する要因—要介護高齢者の介護者の介護負担を中心に—, 臨床と研究, 89(12), 75-79.
- 矢吹知之 (2014) : 家族介護者を支えるための視覚と方策,日本認知症ケア学会誌,13 (3)、553-559.
- 山本則子,石垣和子,国吉 緑他(2002) : 高齢者の家族における介護の肯定的認識と生活の質(QOL) ,生きがいおよび介護継続意思との関連 : 続柄の検討.日本公衆衛生雑誌,49(7),660-671.
- 山本則子 (1995) : 痴呆老人の家族介護に関する研究 娘および嫁介護者の人生における介護経験の意味 1, 看護研究, 28 (3) 178—198.
- 山本則子 (1995) : 痴呆老人の家族介護に関する研究 娘および嫁介護者の人生における介護経験の意味 2, 看護研究, 28 (4) 313—333.
- 山本則子 (1995) : 痴呆老人の家族介護に関する研究 娘および嫁介護者の人生における介護経験の意味 3, 看護研究, 28 (5) 409—427.
- 山本則子 (1995) : 痴呆老人の家族介護に関する研究 娘および嫁介護者の人生における介護経験の意味 4, 看護研究, 28 (6) 481—499.
- 山本由子, 小玉敏江、亀井智子, 上野佳代 (2016) : 高齢者のウェルネス型健康生活チェック表の作成 : デルファイ法による内容妥当性の検討, 日本看護科学会誌, 36, 103-113.
- 山手美和 (2014) : 在宅で生活する終末期がん患者の主たる家族介護者の介護する力, 日本在宅ケア学会誌, 18(1), 83-90.
- 山崎律子, 鷺尾昌一, 荒井由美子 (2012) : 在宅要介護高齢者を介護する家族の介護負担感—都市部の訪問看護サービス利用者の調査より—, 臨床と研究, 89(2), 86-92.
- 山崎喜比古 (2009) : ストレス対処力 SOC(sense of coherence)の概念と定義, 看護研究, 42 (7), 479—490, 医学書院. 61-73.
- Yates, ME. Tennstedt, S.Chang,B(1999) : Contributors to and mediators of psychological well-being for informal caregivers. *Journal of Gerontology, Psychological Sciences*, 54B,12-22.
- 吉田久美子, 南好子, 黒田研二 (1997) : 要介護者高齢者の介護負担感とその関連要因, 社

会医学研究, 15 (15), 7-13.

Young-Eun Chang, Yoshinori Koyama, Kazumitsu Okabe, Kazuo Nakajima (2012) : The Relationship between Caregiving Commitment and the Will to Continue Caregiving for Family Caregiver of Frail Elderly at Home, *The Journal of Japan Academy of Health Science*, 15(3). 152-162.

Zarit, S. H., Reever, K., Bach-Pererson, J. (1980) : Relatives of the impaired elderly: Correlates of feeling on burden. *The Gerontologist*, 20, 649-655.